

「夢」を築こう

団法人栃木県建設業協会(渡邊勇雄会長・会員 320社)では、業界の若い担い手を応援するとともに今後も若い世代が建設業界に入職することを願い、さまざまな事業を展開しています。今回は広報委員会3役と、県内建設業の若手技術者が集い、県内建設業の現状や、今後の課題を議論しつつ、未来への展望などについても語っていただきました。

(企画・制作 下野新聞社営業局)



T社(入社6年)
すずき えいいち
鈴木 瑛一氏



K社(入社5年)
かみなかりょうた
神長 亮汰氏



S社(入社3年)
まつもと しゅうへい
松本 周平氏



U社(入社4年)
のぐちりょういち
野口 凌一氏

他業種にない喜びと達成感



野口 鈴木さん同様、現場管理・監督を担当しています。昼は現場、夜は翌日の段取りや書類の作成に追われる日々です。これまで橋梁耐震工事、盛り土工事など、かなり多様な内容を経験しましたが「どれも一筋縄ではいかない」という印象が残っています。高校時代インターンシップで国道408号の橋梁現場に行きました。その時は、どんな形になるのか見当も付きませんでした。完成した橋を下から見て規模の大きさに驚いた経験があります。「大変な仕事だけど、それだけやりがいも大きい」と思い、現場の仕事に就こうと決め今日に至っています。

松本 私も現場管理・監督です。実際の現場が図面通り進んでいるか確認を行うのですが、少しでもミスを少なくするよう努力しています。インターンシップでは、安全



インターンシップ風景

な作業に配慮した現場へと改善する措置を体験させてもらいました。実際、ゼネコンに入社し、今もその記憶が現場で役立っていると思います。どんな現場も図面通りに作業すればよいと思っていましたが、図面通りには収まらないこともありました。今後も経験を積んでレベルアップし

ていかねばと思っています。ゼロから築きあげ徐々に高まる達成感。それが醍醐味です。

■建設は知的産業 自信と誇りを

——広報委員会の皆さんは、若手のお話を受けていかがでしょうか。

吉田 皆さんの中には、そろそろ「独り立ちしろ」などと言われた人もいないのでしょうか。その際には必ず資格の取得が求められます。建設業は何をやるにも資格が必要です。だから私たちの仕事は誰にでもできる仕事ではないのです。その誇りと自信を持ってください。建設業は「知的産業」であり素晴らしい産業だと思いませんか。その気概を持ってこれからの業界を支えてほしいと思います。さらに何気なく利用しているインフラは、私たち業者、発注者、その地域住民の皆さんとのつながりの上に成り立っています。決して個人の力だけでは、なしえないものです。ここには、他産業では味わえない感動があるはずです。

荒井 我々経営者は、若手が欲しいし、社員の定着率もアップしたいと思っています。戦争を体験した世代が、知らない世代に体験を語り継ぐのと同様に、建設会社でも熟練職がいるうちに、若手に現場の経験と技を伝えていかねばなりません。そこで今日は、「どうすればもっと若い人たちが建設業界に入るか」、「どうしたら辞めずに業界に定着するか」さらに「今いる会社に求める事は何か」を一緒に考えたいと思います。